

先生たちに聞いてみた

着任された先生より

2025年4月に新しく着任された先生5名にお話を伺いました。

Q1 研究分野・足跡 Q2 本学でやってみたいこと・経験したいこと

YASUKAWA Akemi



立和名 房子 特任講師
国際日本文化学科

日本語教育機関で主に留学生対象の日本語教育に従事。初任教師への教案作成指導等の研修に携わる。その後、大学留学生別科の日本語授業や民間日本語教師養成講座での実技指導および試験対策講座の授業を担当。

Q1

第二言語としての日本語教育です。学習効果を高めるために、教師はどんな工夫ができるかということに興味があります。語学留学を機に、学習者の可能性を広げるお手伝いをしたいと思うようになりました。教育現場で培った経験から、現在は教師養成にも関心を持っています。今後は日本語学習を通して人や社会とのつながりを作っていけるような教材やコースの開発もしていきたいと考えています。

Q2

ND祭などのイベントにできるだけ参加し、学生のみなさんと交流したり、何か一緒にできることを探して形にできればいいなと思っています。

Message

日本社会は今後、ますます「多文化共生」になっていくでしょう。若い世代の人たちには「日本語」を通して新たな視点や多様な価値観に触れ、人をつなぐ存在としてより開かれた社会を築いてほしいと願っています。

OGIHARA Keiko



安川あけみ 特任教授
生活環境学科

愛知県出身、奈良女子大学家政学部卒業、同大学院家政学研究科修了。博士(薬学)。大阪教育大学等に勤務後、弘前大学教育学部家政教育講座で14年間過ごす。専門は被服学。

Q1

研究分野は被服学です。中でも、自身で合成した無機微粒子を用いたUVカット性付与、天然植物色素を用いた染色などの被服加工や、家庭科の授業で取り入れやすい被服学分野の教材研究、特に実験法の考案を研究テーマとしています。現代の若者は衣服を見た目で選ぶことが多いかと思いますが、衣服はマネキンではなく活動する人のためのものなので、審美性だけではなく機能性を併せ持つことが大切だと考えています。

Q2

先日エレベーターで乗り合わせた学生さんが、「お先に失礼します」と細やかな心遣いを見せてくれました。日々、本学の学生達の上品な振る舞いに日常的に触れ、すでに、素敵で心豊かな経験をしています。

Message

得意なことを伸ばすのは良いことですが、同時に人は苦手なことを敬遠しがちです。しかし、苦手だと思っていたこともやってみたら意外な才能が開花するかもしれません。心身ともに柔軟な若い間に、何事にも挑戦してください。

OGIHARA Keiko



荻原 桂子 特任教授
こども教育学科

長年、宮沢賢治や新美南吉の作品研究、絵本研究に取り組み、現在は現代人間学部こども教育学科にて国語教育やことばに関わる講義を行っている。『教室で読む宮沢賢治』(花書院)を執筆。

Q1

家族や暮らしの多様化に着目し、それに対応した新たな住まいや住まい方を研究しています。この研究のきっかけは、修士課程でシェアハウスを知ったことです。「どんな場所で、どんな人が、どんな暮らしをしているのだろうか?」という疑問と興味湧いたのが、シェア居住に注目するようになった始まりです。現在は、シェア居住における人間関係の形成過程や、住まいに関する調査を通して研究を進めています。

Q2

恵まれた立地環境である北山の地で、学生のみなさんと一緒に地域との連携活動に積極的に取り組みたいと思っています。また、個人的な事ですが、ソフィア館前の素敵な茶室でいつか薄茶を点ててみたいです。

Message

大学で過ごす4年間はあっという間です。時間を大切に、多くのことに興味・関心を持って、積極的に挑戦してもらいたいです。みなさんと共に学び、得た学びを社会に活かしていくお手伝いできれば嬉しいです。

Daniel King



Daniel King 嘱託講師
英語英文学科

私の研究分野はコミュニケーションを重視した英語教育や教員育成で、特にゲーミフィケーション(ゲーム要素を授業に取り入れること)やテクノロジーの活用に注目しています。テクノロジーを適切に活用すれば英語のスキルが習得しやすくなりますが、課題もあるため、教師も学習者もその使用方法をよく学ぶ必要があると考えています。

Q1

日本文学について研究しています。夏目漱石を筆頭に、日本古典文学についても研究しています。中学生の時にエミリー・ブロンテの『嵐が丘』を翻訳で読んだ事がきっかけとなり、虚構の中にある真実について興味を持ちました。文学には事実では解き明かせないものがたくさんあり、そこにまた魅力を感じています。

Q2

本学には裏千家茶道部など、日本の伝統文化に触れることができる部があり、外部講師や先輩方から多くのことを学ぶことができます。学生のみなさんと共に日本文化に触れながら活動できることをとても楽しみにしています。

Message

京都ノートルダム女子大学は素晴らしいところです。色々な大学に勤めましたが、本学が一番好きです。当たり前ではない環境で学べる今と自己を大切に、図書館でたくさんの本に触れ、他者への想像力を育ててください。

YASUKAWA Akemi



Yasukawa Akemi 嘱託講師
英語英文学科

専門はスピーキング、パフォーマンススキル、文学。主な研究内容は、ゲーミフィケーション、実際の会話を通じて学ぶ授業、言語学習や教育へのテクノロジーの活用。

Q1

私の研究分野はコミュニケーションを重視した英語教育や教員育成で、特にゲーミフィケーション(ゲーム要素を授業に取り入れること)やテクノロジーの活用に注目しています。テクノロジーを適切に活用すれば英語のスキルが習得しやすくなりますが、課題もあるため、教師も学習者もその使用方法をよく学ぶ必要があると考えています。

Q2

学生と深くかかわり、彼女たちが大学を卒業した後も自信を持って英語を使えるようサポートしたいと考えています。また、授業や研究を通して指導法の充実化を図り、他の先生方と連携して言語教育分野に貢献したいです。

Message

みなさんの趣味や興味があることなど、何でも話してください! 私の趣味は美味しいものを食べることと料理(最近はパン作り)です。この大学で楽しい時間を過ごし、社会で活躍するための準備をしていきましょう。

研究成果報告

本学では、独自の学内研究助成制度として「京都ノートルダム女子大学研究助成」を設けています。今回は、2025年度に国外研修助成金(短期)を受け、国外研修に参加された心理学科の松島み教授にお話を伺いました。

国外研修として、ジェンダー教育の先進的な取り組みを行っているタイのタマサート大学を訪問しました。同大学のFaculty of Learning Sciences and Educationの先生方に対し、現在、心理学科で産学連携活動の一環として進めている「誰もが快適な生理を」プロジェクトの取り組みを紹介し、日本とタイの月経に対する認知の差異や社会的課題についてディスカッションを行いました。さらに、同大学においてジェンダー啓発や本学でも取り組んでいる学内でのナプキン無料配布プロジェクトに取り組む学生グループの発表を聞かせていただき、活動の実情や課題を伺いました。この活動には多様なジェンダーの学生が参画しており、このジェンダーを超えた取り組みは同大学のジェンダーに関する意識の広がり実践の深化をうかがわせるものであり、日本にとっても参考になる視点だと感じました。

今後は、日本とタイの大学生に実施した月経に関する調査結果をもとに、両国の結果について文化的背景を踏まえて考察する機会を持ちたいと思います。また、訪問時には、教育資源が限られた地域の子ども達向けに、ジェンダーや健康教育に関する教材開発に取り組む学生の様子も見学しました。今後、そのような教材開発を本学学生とともに取り組んでみたいと考えています。

